

束してくれ給へ？

チャック それは約束するが……併し何故かね？

アルベール 何故といふに僕があの人にそのやうに話をする自分の天性からそうするのだ

とあの人が理解するだらうからね……

チャック いやーそれでは君は奮然としてそうする積りなのか？

アルベール やるともね。

チャック 萬歳！その決心こそ君を大に名譽づけるだらう。

アルベール それでは僕等が二人一緒にゐることをあの人に見附けられないやうにしよう。

ねえ、あの方は直にさとして了ふからね。では君、君は直ぐに行つてくれられるかね？

チャック よろこんで。僕は用事があるからね。では歸りにまた來て結果をきくからね。

アルベール ありがとう、チャック君。

チャック それではまた、アルベール君。(慇懃に握手して去る。)

第四景

アルベール 後ちにアンリエット

アルベール (一人) ああ！僕は馬鹿なことが大好きだ！うむ！僕は良にかかるかも知れな

い！……やつてみるさ！

アンリエット いらつしやいました！……あなたはチャックさんにお逢ひしました？

アルベール (決心したる様子で) いや、逢ひません、全く逢ひません。それで幸福です！

アンリエット 何故ですか？

アルベール 何故といふに、僕はあなたは何んとも思はない男を、あなたの前で見るのは不

快だからね。

アンリエット (よろこんで) あなたそれが本當においやですつて？

アルベール そうです、いやです。それに僕はあなたにお話したいことがあるのです。

アンリエット　チャックと私の関係を？

アルベール　いやージャック君のことばかりではありません！

アンリエット　その外どなたですか？

アルベール　澤山あるのです！

アンリエット　本当に？

アルベール　あなたは人の云ふ所謂媚びを賣る女ですよ。

アンリエット　どうして？あなたはそう思ひになりますの？

アルベール　そうですね！……確かですとも！

アンリエット　それから私は外にもあなたを不愉快にしますのね！

アルベール　そうですね！外にいくらでもある。

アンリエット　（愈々よるこんで。）あなたは確信してゐらつしやるのね！

アルベール　それがお氣に入らなければ一層いけない。

アンリエット　どうしましてそんなことはありませんわ、アルベールさん！……それと全く

大反対よ！……そんなことをおつしやるなんて、私本当にうれしいわ……本当に素敵よ！……

アルベール　併しあなたがよろこばうがよろこぶまいが僕は何等痛痒を感じません。僕は氣分の向くままに云ふのですからね。そしてそれはあんまり抑壓的だと思ふが仕方がありませんよ。

アンリエット　まあ、あなたは本当に偉うございますこと！

アルベール　いや、僕は當前のことを云つてゐるのです。

アンリエット　まあ！アルベールさん若しかしてあなたは本当に何んでございましたら……

アルベール　僕はあなたが何んと考へてゐるのか全く知りません。併し、僕は保證して置き

ますが、巴里中には僕より不屈の精神を持つてゐるものはありませんからね……

アンリエット　（熱狂的に。）まあ！あなた！あなた！

アルベール　（獨白。）しめた！しめた！

アンリエット　それではどんな點が私は媚を賣る女だとお見えになりますの？

アルベール 例を挙げて云へばあなたの夜會や芝居やそれから競馬に行くことなのです。あなたがそんな場所に着くや否や、あなたの知つてゐるものは、あなたの傍へ群がつて来る。それからあなたを知らないものは、あなたに近づきにならうとする。あなたといふものは噂話の中心なのです。こんな評判を取るといふのは抑も何にが爲めであるか承りたいものですか？

アンリエット (謙遜して。)それは！私が同情家であつて、愛嬌があつて、それから交際家だからでせう……

アルベール あなたより愛嬌のある女は外に澤山ありますよ。

アンリエット (大に謙遜な態度で。)あなたは事實を認めるとお強いになりますのね……

アルベール 併しあなた以上の交際家の女でも、人の面前で自分達の好意を見せびらかすのをよろこぶものではありませんよ。女は自分等の威權のある様子をしてゐること、或る特別な種族であるといふやうな、尊大な様子を隠してゐるものですよ。

アンリエット (その制限を既に承知してゐるといふやうなよるこびの態度で。)あなた、ありがたう。

本當に私あなたにお禮を申しますわ……

アルベール (獨白。)しめた！

アンリエット これから以後は私もつと行儀よくしますわ。

アルベール それからまた……

アンリエット (我慢でき兼ねるといふ様子を見せて。)何んですつて？まだ外に批評することがあるのですつて？

アルベール 澤山あります！

アンリエット それなら、早くおつしやいな……

アルベール (獨白。)しめた。

アンリエット (忍耐できずに。)ねえ、早くおつしやいませ。

アルベール 第一番にあなたのあの女學生みたいな極端に、馬鹿／＼しい感傷的なことを止めてもらいたいものです。

アンリエット どんなことからあなたはそんなことをおつしやいますの。あなたは私にそん

なことでお容ゆるきとおつしやるのですか！

アルベール　そうです。或る日田舎に行つた時に、あなたは猫の爪に捕へられた小さい鱈鼠を見て涙を流した。そして二分もたつか立たないうちに此度はその猫が鱈鼠を呑もうとして咽喉を窒らしたので泣き出した。

アンリエット　それは私が可哀想な動物を可愛がるといふ親切があるからではありませんか。可哀想な動物を親切にするのは何にも悪いことではないではありませんか。

アルベール　併し若しもあなたがそんな反對の天性を持つてゐなかつたならば大して重大なことではなからう——極く空虚なそして極く平凡な會話ばかりを好むといふ……

アンリエット　(些しく輕蔑的に) まあ、あなたはそんなことまでおつしやいますの——ですけどそれはあなたの眼識を疑はせませう！ねえ、私は高貴なそして高尚のことばかりに興味を持つてゐるのですからね。

アルベール　併し、あなたは會話が眞面目なことになると直に、絶えず欠伸をしたり、當惑の様子をするではありませんか。

アンリエット　ええ、それは或る部分はあつてゐますわ。

アルベール　ねえ、解つたでせう！

アンリエット　(自分自身を甘き微笑で見詰めながら) ええ、それは私は人様のおつしやることをお終ひまで聞かずに、ものが解るやうな變な才があります——つまり私はあんまりものを早合點して了ふのですわ。外の方は説明されるのを待つてゐらつしやられますのに私は待つことができずに、そしてもう一里も先の方に飛んで行つて了ふのですわ！

アルベール　ねえ、アンリエットさん、こんな話で、僕はあなたの非常なる缺點を發見しました……

アンリエット　どんな點が、ええ？

アルベール　あなたの非常なる缺點は——それは虚榮心です！

アンリエット　(正直に) 虚榮家ですつて、私が……まあ！それは、随分非道いわね！

アルベール　(自若として) そんなことはありません。僕があなたの缺點を指摘する度毎にあなたはそれを曲解して、自分の利益のやうにとつて了ふ。だから、あなたは僕があなたを

苦める以上に、誰れにも増してあなたは悪者なのです。外の者は……

アンリエット あなたは終ひには私を怒らせませうのね！……あなたは私が面と向き合つてお話ししてゐます方よりも、どんなにか私自身が行儀がいいと思ひましても、あなたは私の缺點を見出しますのね！

アルベール あなたは僕等のこの境遇を諷刺しやうとするのではありますまいね？……
アンリエット 勿論ですわ、私は諷刺しますわ。

(アンリエットは男より離れて他の方の側に行つて腰かける。)

アルベール そんなことはない！……アンリエットさん！ (笑ひ出しながら) あはあ！あはあ！あはあ！……僕は解つた！

アンリエット 何にがですか？

アルベール あなたは怒つたふりをして僕を欺そうとしてもだめです。あなたは僕といふ男があなたの氣象を我慢できるかどうかを試めそうとしてゐるのです。それでは次ぎの話に進ませう——そしてあなたのお化粧のことを話そう……

アンリエット (此度は本當に怒つて。) 私のお化粧のことですつて？……あなたはそんなことまでおつしやるのですか！

アルベール そうです。それで今日はお終ひにしませう。

アンリエット それではあなたはまた明日もそうなさるのですか！あなたは自分の面前で耻められるのを一分間でも私が聴いてゐられると思ふのですか？……あなたは氣狂ね！……あなたは本當に悪い方ね、まあ考へてご覧なさい、あなたは目の前で私を耻める爲めにお出になつたのですか！あなたといふ方は本當に兒戯こぼみたいのことをなさるばかりでなく、憫れな氣六ヶ敷い方ね！

アルベール (些しく狼狽して。) 些しお口をお謹みなさい！

アンリエット ええ、謹みますわ！ですけれどあなたは本當に嫌やな皮肉屋ね。本當に嘔吐するやうな性格の方ね！……いつでも淺薄な細かいことをおつしやいますのね！本當に爪の垢程のことをほぢくるやうにね！……

アルベール あなたは僕は頭の空な木愚漢だといふことを諷刺あてつてゐるのですね！

アンリエット ええ、本當にそうよ。若しもあなたは毎朝の新聞を規則正しくお読みになりませんかでしたならば、本當にそうでせう。ねえ、あなたが一日中に私に何におつしやるか、私が前以つてちやんと知りませうにそのやうに規則正しくね。

アルベール それよりあなたは僕を人真似鸚鵡と云つたらばいいでせう？

アンリエット それはいけませんわ。何故と云ふにあなたは鸚鵡のやうに上手にお話ができますもの。それに鸚鵡の語呂は亂れませんもの。それどころか鸚鵡は些くとも普通の行儀はわきまへておますものね。

アルベール いやーいやーこれはいかん！……そんなに僕が馬鹿だと思つてゐらつしやるならば、どうしてこんなに長く僕を我慢することができたのです。

アンリエット それはあなたは別に危害を加へる方でないと思ひましたからよ。

アルベール あなたは僕を無残に傷けたのですね。

アンリエット あなたもそうよ。私達はこんな議論をしてつたのですもの！……私はこれから後ちあなたにどんな態度をとつて交際したらばいいのでせう。

アルベール 僕もそうです。もう時機です！僕は昨夜こんなことを考へたのです！あなたに

僕の妻君になつてくださるやうお願ひしやうと決心してつたのです！

アンリエット まあ、あなた、あなたはそんなことをおつしやるなら、私は直ぐに歸つて頂きます！

第五景

前同人にヂヤツク

ヂヤツク いや！どうしたのです！そんな大きな聲を出して！

アンリエット まあ！ヂヤツクさん！……本當にあなたはいい所へ来てくれましたわ！

アルベール ええ！本當にいい所へ来てくれた——これで僕等の話もうまく済んだからね。

ヂヤツク 併し、何にが起つたのです！

アンリエット この方が……

アルベール いや！奥さんが……

アンリエット ねえ、チャックさん……

アルベール ねえ、君……

アンリエット お黙んなさい！私が先きにお話します……

チャック あなた方は二人ともあんまり興奮し過ぎてゐるからだめです……アルベール君、

君は外へ行つて頭を冷やして來給へ。

アルベール うむ、本當にそうだ。

アンリエット それで私もここで息がつかますわ。

チャック (アルベールに。)君の留守の間に僕がいろいろにしてやるよ。

アルベール 僕はあきらめないからね。

アンリエット 私もよ！

チャック (二人に。)よし！よし！

アルベール それでは奥さん、失敬。

アンリエット さようなら。

チャック 失敬、君。

(アルベール去る。)

第六景

アンリエット チャック

アンリエット まあ……これでよかつた、本當に非道い人つてありやしない！

チャック どうしたといふのです？

アンリエット (安樂椅子に腰かけて、手でチャックにも掛けるやうに招き。)あの人つたら憎らしい

ことをおつしやるつてありませんのよ。私の眼の前で私のことを何んのかんのと批評な

さるのですもの……

チャック 何んだつて？

アンリエット 本當に馬鹿氣た變なことつてありやしませんわ！私考へても病氣になつて了ひますわ……

チャック いや、アンリエットさん、そんなことは考へない方がいい。アルペール君はあなたを怒らせるやうに非道いことをしたに相違ないからね。

アンリエット ねえ、そうじやありませんか？あなたは私の方がいいと思ふでせう？

チャック (忠實に。)ええ、そうですとも。

アンリエット (寛大になつて。)それで私は安心しましたわ。

チャック 僕はあなたが怒つてゐるのを見た時に、自分でかう云つたのです——「アンリエットさんが正しいのだ！」と。

アンリエット 本當に、そう！

チャック それはそう云ひますとも。何故といふに僕はあなたは、平和を愛し、思ひやりが深いといふことを知つてゐるからね。それにあなたは却々……

アンリエット (深い確信を持つて。)それは私に對して些くともそう云はれますわ。

チャック どんな事件に關しても、あなたは觸覺とそれから美しい精神を持つてゐます！

アンリエット (感動して。)あなたは、私を理解してゐらつしやるのね！

チャック そうですとも！……僕はあなたが決して間違はないといふことを本能的に解るのです。あなたはどんな場合に處しても平衡を保つてゐるし、それに行儀が正しいからね！

アンリエット (極く卒直に。)ねえ、正直に云ひますと、私はあなたと一緒にゐました時に心を亂したことがあるでせうか？

チャック どうしてそんなことがあるのですか！……あなたは僕の前では、いつもそれは我慢が強く、愛嬌があつて、それで極めて謙遜でした！

アンリエット ですけど、先刻は私何んでしたわね、あなたを苦めましたやうね。

チャック ええ、それは僕は可哀想でした！

アンリエット 私が悪かつたのね。あなた私のことが解るでせう、あなたこそ私の本當のお友達よ——

チャック 本當にあなたは眞面目でそう思つてゐるのですか。

アンリエット ええ、そうよ。

チャック それでは眞面目であるといふ證據を僕に見せてください。

アンリエット どういふやうにして？

チャック あなたの將來を僕の手に握らせてください——僕と結婚してください！

アンリエット たつた今、私もそう考へてゐましたの！

チャック そうですか！

アンリエット あ！

チャック どうしてあなたは躊躇するのです？

アンリエット ねえ、あなた、あなたは私が一寸前にお話しましたことを覚えてゐらつしやつて！

チャック 覚えてゐます。

アンリエット ですけど、あなたは確かにお解りでせう！私は自負心が無くはないといふことを？

チャック 確かですとも。

アンリエット それからあなたは先程私がお話しましたやうに、私の道德上での指導者であるやうに固く決心してゐらつしやるのでせうね！

チャック そうですとも。

アンリエット それでは私一つ條件がありますわ。

チャック どんな？

アンリエット あなたの名譽のことです！

チャック 僕の名譽に關して。それで。

アンリエット ねえ、決して可哀想だと思はずに、私の缺點を見付けましたら、その度毎に

私におつしやつてくださると、誓つて頂戴な？

チャック (嚴格に)誓ひますとも。

アンリエット それではお約束通り私はあなたのものよ。

チャック ありがとう。



版權
所有

大正十一年九月五日印刷
大正十一年九月十日發行

「化石」
定價壹圓五十錢

譯者

大關 柀郎

發行者

遠藤 孝篤

印刷者

高橋 治一

發行所

東京市牛込區神樂坂通リ
番地四六八七番

文泉堂書店

大關柁郎戲曲集

第一卷

嵐

(外二篇)

四六判箱入上製美本
定價壹圓九十錢
送料十錢

著者大關氏は新劇壇の新進、歐米に留學すると七年餘その間に演劇書を讀破すると二千餘冊觀劇すると四百有餘「劇作家は何よりも第一に藝術家であらねばならぬ。そして豫言者であり、哲學者であり、文明批評家であり、詩人であり、新生活と新道德の創造者であり、また人生と文化——幸福と愛と美の教育者であらねばならぬ」といふモットーを有する作家である。何んといふ高遠な信條であらう。自信なければ云ひないことである。だが多くは廣告しまい。氏の言が違ふかどうかは作品自らが語るから。併し何んといふ偉大な作品であらう。「嵐」は日本演劇壇の傑作として必ず遠永性を有するといふことは斷言して憚らない。ボストン大學在學中約八年前の作であるといふに作者は炯眼にも今日の白蓮夫人の如き新婦人の出現を豫言してゐる。そして白蓮夫人と某氏をモデルにしたのではないかと思はれる程同じ境遇にある子爵夫人を主人公とした四幕の長編である。劇愛好者は勿論白蓮問題に興味を持つもの、また反感を抱くものに敢て一讀を薦む。

現代佛蘭西戲曲傑作叢書
大關柁郎編譯

第一編

エルヴェー作「呪はれたる夫婦」(三幕) 定價 壹圓三十錢
附 フランス作「クレインクビユ」(三幕) 送料 八錢

エルヴェーは佛蘭西のイブセンと稱せられる大家、社會の贅物を清めて宇宙の眞理を抽出しやうとする作家である。氏はこの作に我が國の離婚法と等しき佛蘭西の離婚法の不合理を攻撃してゐる。その會話のデリケートにして明快、主人公若き夫人の燃えるやうな感情、讀むものをして魅惑せずには置かない力作であり、藝術的香の高い作である。附録フランスは佛蘭西の思想家にして大文豪最近ノーベル賞金を得たことは世人の普く知る所、この作は氏の唯一の長篇傑作戯曲で巴里市街人の生活を描いた社會劇である。

第二編

ラヴダン作「若公爵」(三幕) 定價 壹圓五十錢
附 ベルナル作「偽せ通辯」(一幕) 送料 八錢

ラヴダンは佛蘭西のショウとも稱すべき作家である。併し彼れの人物はショウの人物の如く作者の傀儡ではなく眞の活きた人間である。そして警句と諷刺は實に垢抜けした巴里人のやうである。この作は佛蘭西の貴族生活を描いてその凋落を諷刺したもの、丁度日本の貴族生活を佛蘭西人が書いたやうに親み深く、上品で喜劇のお手本のやうな感がある。

第三編

ブリウ作「村の娘」(三幕) 定價 壹圓五十錢
附 ラヴダン作「未來永劫」(一幕) 送料 八錢

ブリウは梅毒劇の作者として世界的名聲を博してゐるが本國の佛蘭西では「村の娘」の著者として持囃されてゐる。氏の傑作で「自由劇場」に上演されて以來今日まで引續いて上演されつゝあり、佛蘭西の女子教育の缺陷を攻撃したものの主人公の村の娘は虚榮心の高い、日本の娘によく似た娘で両親と衝突して巴里に放浪する生活を描いた面白い作である。

第四編

ドンネー作「情人」(五幕) 定價 壹圓五十錢
送料 八錢

ドンネーは巴里子中の巴里子で人生の退屈より遁れる美しい救済法は戀愛であるといふ極く開放的な天性を持った作家で、「アナトル」の作家の先生である。戀愛は神聖なものであると道徳に超越するのも氏である。この作こそ巴里人の戀愛生活を描いた美しい氏の代表作であり、世界の戀愛劇中の戀愛劇で「アナトル」を愛する人々の是非讀むべき作だ。

第五編

キユレル作「化粧」(四幕) 定價 壹圓三十錢
附 エルヴェー作「貞淑」(一幕) 送料 八錢

キユレルは佛文學者の大家吉江教授の驚嘆してゐる最も獨創的な作家である。トルストイを聯想させる作家で佛蘭西の貴族である。氏は道徳家であり心理學者であり、その不思議な天才的想像力は實に驚くべき深刻味を持つてゐる。この作は氏の傑作であつて貴族の老たる父と若き子が一人の美しい同宿の娘を戀ひ争ふて子の憤死を描いた怖ろしい作だ。

現代佛蘭西戲曲傑作叢書
大關柁郎編譯

現代佛蘭西戲曲傑作叢書

大關柁郎編譯

第六編 ロスタン作「シヤントクレール」(四幕)

六月中旬發賣

ロスタンは世界的の大詩人であり劇作家であることは文學を愛好する人の普く知る所であるから敢て贅言を費すまい。その作者が八ヶ年の長年月を費して幾度か病床に呻吟しながら書いて世界を震駭した大作である。譯者また血を吐く思ひして苦心慘澹譯出したものその詩華が何に絢爛であるかは想像されべく動物の世界を借りて巴里の文壇を諷刺した物

第七編

ルメートル作「容赦」(三幕)
附 ドンネー作「彼等」(一幕)

七月上旬發賣

ルメートルは偉大なる劇評家として世界的名聲のある作家で、「容赦」は其の傑作でありまた世界の劇壇に普ねく知られてゐる作である。僅か三人の人物を以つて三幕の戯曲を描き、聊かの弛みもなく観客を魅惑する、その技巧の優れたること實に驚嘆すべく、新劇の愛好者は勿論いやしくも劇作家たらんと志す人の必讀を要する作である。

第八編

ベルンステイン作「盗人」(三幕)

七月下旬發賣

ベルンステインは問題を超越して現代佛蘭西劇壇中最も評判高き作家で、生れながらの劇作家であると云はれてゐる。氏の作は新しい問題劇でもなくまた深い思想劇でもない。然

現代佛蘭西戲曲傑作叢書

大關柁郎編譯

第九編

カビユー作「辨護士とその娘」(三幕)
附 ケールラベ作「處世法の選擇」(一幕)

九月上旬發賣

し観客をして最初から感激に酔はしめるプロット作家である。この作は氏の代表作で二幕目は僅か二人きりの舞臺であるがその緊張味は驚くべく所謂「大幕」として世界に知らる。カビユーは佛蘭西劇壇の諷刺的現實主義者である。人生の活劇外に立つて人生を興味深く或は怒りぼく、と云つても人々の良心に闖入せずに入生を通譯してゐる人である。だから氏は運命主義者であり樂天主義者である。この作も樂天的運命に操つられる、辨護士一家の奇しくまた面白き有様を輕快な筆で描いたもので、惡觀論者には非「讀を薦める。

第十編

ベック作「巴里の女」(三幕)
附 ポート・リツシユ作「彼女の幸福」(一幕)

九月下旬發賣

ベックの名はイブセン、アントワヌ等の名と等しく、今更茲に紹介する必要のない、近代劇愛好者に知られてゐる名である。氏は實に佛蘭西劇壇自然派の先生である。「巴里の女」は「鴉」と共に氏の傑作として新劇壇のお手本と目されてゐる代表作である。ポート・リツシユはドンネーと等しく情話劇の大家、作は優雅で肉感的で評判が高い。

發行所

京東京市牛込區神樂坂通
振替東京四四六八七番

文泉堂

三島章道著 劇藝術小論集

定價壹圓五拾錢
送料八錢

三島章道著 演劇論と劇評集

定價貳圓二十錢
送料八錢

メーテルリンク作
山村 魏譯 スチルモンドの市長(戯曲集)

定價貳圓四拾錢
送料拾貳錢

ゴルドンクレーグ作
渡平 民譯 新劇原論

定價參圓
送料拾貳錢

渡平 民譯 歐米演劇史潮

定價貳圓四拾錢
送料拾貳錢

邦枝完二作 異教徒の兄弟(脚本集)

定價貳圓五十錢
送料十一錢

新居 格著 左傾思潮

定價貳圓參拾錢
送料拾貳錢

505
ΔΔ

終